

絵本の読み聞かせに関する心理学的研究 (IV)

－幼児の物語理解に及ぼす視点と絵本提示の効果－

今井靖親・中村年江

(心理学教室) (神戸女子大学後期博士課程)

A psychological Study on Reading Picture books(IV)

－Effects of Viewing Perspectives and Presentation of a
Picture book on Young Children's Story Comprehension－

Yasuchika Imai (Department of Psychology)

Toshie Nakamura (Doctor course of Kobe Women's University)

Abstract

The purpose of this study was to examine the effects of the orienting the viewpoints and the presentation of a picture book on young children's story comprehension.

The main findings of this study were as follows:

- ① The score of the comprehension test was highest for subjects who were oriented their viewpoints and were presented a picture book.
- ② The score of the comprehension test was lowest for the subjects who were not oriented their viewpoints and were not presented the picture book.

The results suggest that orienting the viewpoints to things, peoples and scenes in the story and presenting pictures in course of reading the book have a considerable facilitative effects on young children's story comprehension.

Key words: young children, reading a picture book, story comprehension, orientation of the viewpoint, presentation of a picture book.

I. 目的

幼児期からの人間の成長にとって、絵本は重要な役割を果たしている。ところが、幼児と絵本との最初の出会いは、幼児自身が絵本を手にして、そこに印刷された文字を「読む」というような読書形態においてではない。それは、親（または他の養育者）による文章の「読み聞かせ」という場において実現されるのである。つまり、絵本の「読み聞かせ」は、通常の読書のように、本に印刷された文章を自らが読むことも、また「語り聞かせ」のように、大人の語る「お話」を、子どもが耳で聞くことも異なっている。それは、大人と子どもとの人間関係を基盤として、文字で書かれた文章や物語を大人が音読し、子どもは本に描かれた絵を見ながら耳で音読を聞く、という独特のメカニズムをもった言語活動というべきであろう。

中村(1991)は、従来の絵本の読み聞かせに関する心理学的研究を調べ、次の①から⑦までの変

数の存在を明らかにした。

①は絵本による変数である。作家によって記述される物語のテーマ・内容・文章表現、画家によって描かれる挿話などの他、絵本の形・大きさなどの変数がここに含まれる。

②は読み手に関する変数である。通常、絵本の読み手は、親や保育者などの大人である。読み聞かせの技能としての発声・表現力・本の提示の仕方をはじめ、絵本についての読み手自身の内容把握の程度、子どもの発達や興味への理解などが考えられる。

③は聞き手に関する変数である。通常、聞き手は、2歳～6歳の幼児である。彼らの年齢・性・知識・理解力等の他、読み聞かせ場面における興味や集中度などもここに分類される。

④は絵本と読み手の両方にかかわる変数である。たとえば、読み手が予め物語の主題について情報を提示し、それが聞き手の物語理解に及ぼす効果を検討するような研究における変数がこれに該当する。

⑤は読み手と聞き手の両方にかかわる変数である。たとえば、読み聞かせの途中に挿入する質問などが考えられる。

⑥は絵本と聞き手の両方にかかわる変数である。たとえば異なった種類の絵本を読み聞かせ、子どもの年齢によって理解度がどう異なるかを検討するような研究における変数は、ここに分類される。

⑦は絵本・読み手・聞き手の三者にかかわる変数である。絵本の提示方法、読み手の読み聞かせ方、聞き手の年齢などを相互に関連させた変数が考えられる。

われわれは、これまで上記①～⑦のいずれかに関する一連の研究を行ってきた（たとえば、今井・中村，1989；今井・飯田，1990；中村，1991；中村，1992a；中村，1992b）が、本研究においては、特に、④の絵本と読み手の両方に関連する変数について、新たな観点から実験的な検討を加える。すなわち、絵本の読み聞かせにおける幼児の物語理解に、読み手による視点の操作と絵本の絵の提示とが、どのような影響を及ぼすかについて、実験的に検討を行うことが本研究の目的である。

II. 方法

実験計画 2（視点の操作：有・無）×2（絵本の提示：有・無）の要因計画が用いられた。視点の操作の有無とは、絵本の読み聞かせの途中で、読み手が絵本の文章や絵で描写されている物・人物・事象に聞き手の注意を向けさせるような働きかけを行うか行わないかの違いである。絵本の提示の有無とは、読み聞かせを行う際に、絵本を見せるか見せないかの違いである。

対象者 幼稚園及び保育所の年長児120名（平均年齢は5歳5か月）。彼らを男女の比率を考慮して、次の4群（各群30名ずつ）に配置した。

①視点操作有り・絵本の提示有り、②視点操作有り・絵本の提示無し、③視点操作無し・絵本の提示有り、④視点操作無し・絵本の提示無し

材料 ①読み聞かせる物語 筒井頼子作・林明子画の絵本「はじめてのおつかい」（福音館書店）の文章を使用した（表1参照）。

②提示する絵 絵本提示有り群の幼児には、上記の絵本の挿絵を用いた。

③絵本と同型・同ページ・無地の冊子 これは、絵本提示無し群の幼児に、絵本の代わりとして用いた。

表1 実験材料の絵本『はじめてのおつかい』の文章

(表1-1)

場面	文 章
1	あるひ、ママが いいました。「みいちゃん、ひとりで おつかい できるかしら」「ひとりで！」 みいちゃんは、とびあがりました。 いままで、ひとりで でかけたことなんか、いちども なかったのです。「あかちゃんの ぎゅうにゅうが ほしいんだけど、ママ ちょっと いそがしいの。ひとりで かってこられる?」「うん!みいちゃん、もう いったもん」
2	みいちゃんは、ままと ふたつ やくそくをしました。くるまに きをつけることと、おつりを わすれないこと。みいちゃんは、ままたに ひゃくえんだまを ふたつ もらって、てに しっかり にぎりしめ、うちを でした。
3	みいちゃんが、うたを うたいながら いくと、ちりん ちりん、べるを ならして、じてんしゃが きました。みいちゃんは どんとして、へいに べたっと くっきました。じてんしゃは、かぜのように びゅーんと、はしってしまいました。
4	そこへ、ともだちの ともちゃんが きました。「どこへ いくの?」「おつかい。ままたに ぎゅうにゅうを たのまれたの」「へえ!」 ともちゃんは めを まるくしました。「ひとりで?」「うん」「へえ!」 ともちゃんは、もっと めを まるくして、ってしまいました。
5	さかに きました。さかのてっぺんが おみせです。いつも、ままた こうえんに いくとき とおります。「かけあし どん!」みいちゃんが、ひとりで ごうれいを かけて、かけだしたとたん、すってーん! あんまり いそいだので、いしに つまずいて ころんでしまいました。ひゃくえんだまが ころころ、ころがっていきます。あしも ても、じんじん いたみます。でも みいちゃんは、おかねのことが しんばいで、すぐ たちあがりました。
6	ひとつは、みちのはしに おちていました。「もうひとつは、どこかな」 くるくる くるくる さがしまわると、「あった!」 くさのかけに、ぴかぴか ひかって、ころがってました。おかねが ふたつとも みつかったので、みいちゃんは、げんきに さかを かけのぼりました。
7	おみせには、だれも いません。みいちゃんは、おおきな しんこきゅうを ひとつしました。それから、「ぎゅうにゅう ください」と、いいました。うんと おおきな こえを だそうと おもったのに、ちいさな こえしか できません。だれも できません。

(表1-2)

場面	文章
8	みいちゃんは、むねが ときどきしました。そこで、まえより もっと ふかく しんこうきゅうをしてから、「ぎゅうにゅう くださあい」と、いいました。けれども そのとき、ぶるるる ぶるーん、くるまが とおりすぎ、みいちゃんのこえが けされてしまいました。おみせには、まだ だれも でてきません。
9	だれかが、「ごほん!」と、いいました。ふりかえてみると、くろい めがねをかけた おじさんが、たっていました。めがねおじさんは、「たばこ!」と、どなりました。おみせのおくで、ごごと がさがさ おとがして、おばさんが、えぶろんで てを ふきながら できました。「はいはい たばこですね」おばさんから たばこを うけとると、めがねおじさんは いってしまいました。
10	みいちゃんは、おおいそぎで、「あのう」と、いいました。こんどは、ふとった おばさんが、「あのね、ばんを くださいな」みいちゃんを おしのけるようにおみせのまえに たったのです。ふとった おばさんは、おみせのおばさんと べちゃくちゃ べちゃくちゃ おしゃべりをして、ばんを かって いってしまいました。
11	おみせのまえは、また みいちゃんだけに なりました。「ぎゅうにゅう くださあい!」 とつぜん じぶんでも びっくりするくらい おおきな こえが、でました。おみせの おばさんのめと みいちゃんのめが、ばちんと あいました。むねが、どっきん どっきん なって、めも、しばしば おとがしました。
12	「まあまあ、ちいさな おきゃくさん。きがつかないで ごめんなさい」おばさんは、なんども あやまりました。みいちゃんは きゅうに ほっとして、ぼろんと ひとつ、がまんしていた なみだが おこってしまいました。
13	みいちゃんは、てのなかで あったかくなった おかねを わたして、ぎゅうにゅうを うけとると、ぼっと かけだしました。
14	「ちょっと、ちょっと まって!」おばさんが、はあはあ いいながら、おいかけてきます。「おつりよ、おじょうちゃん。はい、じゅうえんだま、ふたつ。しっかり もってかえて、ままに わたしてね」おばさんは、おつりを わたしました。
15	さかのしたで、ままが あかちゃんを だっこして、てを ふっていました。

④物語理解度テスト 表2に示したように、絵本の物語に出てくる事物の名前、人物の行動、人物の心情などについて問う10の質問項目から成っている。

手続き 実験は、幼稚園・保育所の部屋を使って個別に行われた。

①視点操作有り・絵本提示有り群の幼児には、実験者が、表3に示した8つの場面で、絵本の文章を読みあげてから、その叙述をもとに、絵を指しながら、言葉で事物・人物・事象について確認させるための教示を行った。たとえば、この物語の最初は、主人公の「みいちゃん」が母親におつかいを頼まれる場面から始まる(表1の1の文章参照)。実験者は、この文章を読みあげてから、絵本の絵を指しながら、「みいちゃん、ママにおつかい頼まれているね。ママ忙しそうだね。」という言葉をかけた。

表2 理解度テストの内容とその正答例

番号	質問項目	正答例	絵本における 該当場面
1	みいちゃんは、ママにどんなことを頼まれましたか。	おつかい 牛乳を買うこと	1
2	ママは、なぜ、みいちゃんにおつかいを頼んだのですか。	忙しいから	1
3	みいちゃんが、歌を歌いながらいくと、何が来ましたか。	自転車	3
4	自転車がちりんちりん、ベルを鳴らして来た時、みいちゃんはどんな気持ちでしたか。	どきんとした こわい びっくり	3
5	ころがっていったお金は、ひとつは道の端にありました。もうひとつは、どこにありましたか。	草のかけ	6
6	太ったおばさんが、帰ってしまった後、みいちゃんはどんな声で「牛乳下さい」と言いましたか。	大きな声	11
7	お店のおばさんが、「まあまあ小さなお客さん。気がつかなくてごめんなさい」と言った時、みいちゃんはどんな気持ちでしたか。	ほっとした	12
8	お金を渡して牛乳を受け取った時、みいちゃんはどんな気持ちでしたか。	良かった 嬉しい	13
9	お店を出て戻って来た時、ママは、坂の下で何をしていましたか。	赤ちゃんをだっこして手をふっていた	15
10	この時、みいちゃんはどんな気持ちでしたか。	ほっとした 良かった 嬉しい	15

②視点操作有り・絵本操作無し群の幼児には、絵本と同型・同ページ・無地の冊子を与え、物語の展開に応じてページをめくりながら表3に示した5つの場面で絵本の文章中に叙述されている事象・人物・事象について確認させるための教示を行った。たとえば、最初の場面では、実験者は文章を読み終わってから、「ママ忙しいから、みいちゃん、おつかい頼まれたんだって。」という言葉かけた。

③視点操作無し・絵本提示有り群の幼児には、各場面ごとに絵本の文章を読み聞かせながら、挿絵を見せた。

④視点操作無し・絵本提示無し群の幼児には、②で用いた冊子を与え、ページをめくりながら各場面ごとに絵本の文章を読み聞かせた。

すべての場面について、読み聞かせが終了した時点で、各群とも、物語内容についての理解度を調べるために、表2に示した10項目について質問を行い、得られた回答を記録した。

表3 視点操作のための教示

番号	絵本の提示有り条件	絵本の提示無し条件	理解度テストの該当番号
1	みいちゃん、ママにおつかい頼まれているね。ママ忙しそうだね。	ママ、忙しいから、みいちゃんおつかい頼まれたんだって。	1, 2
2	自転車が来たから、みいちゃん、びっくりしているよ。	自転車が来たからみいちゃん、びっくりしちゃったんだって。	3, 4
3	この草のかけにお金があるよ。よかったね。	お金草のかけにあったんだって。よかったね。	5
4	みいちゃん、こんなに大きく口をあけて言っているね。	みいちゃん、すごく大きな声で言ったんだって。よかったね。	6
5	(視点操作無し)	(視点操作無し)	7
6	(視点操作無し)	(視点操作無し)	8
7	ママ、赤ちゃんと一緒に迎えに来てくれたんだね。みいちゃんおつかいできてよかったね。	ママ、赤ちゃんと一緒に迎えに来てくれたんだって。みいちゃんおつかいできてよかったね。	9, 10

Ⅲ. 結果

(1) 理解度テストの各項目における回答の適否に応じて2点、1点、0点を与えた。全体で10問あるので、満点は20点である。

表4に理解度テストにおける各群の平均得点と標準偏差を示した。これをもとに、視点の操作の有無と絵本提示の有無とを被験者間の要因とする2×2の分散分析を行った。その結果、視点操作の有無の主効果がF(1, 116) = 14.18, P < .001で、また絵本提示の有無の主効果がF(1, 116) =

表4 各群野平均得点と標準偏差

		絵の提示有り	絵の提示無し
視点操作有り	\bar{X}	12.53	11.47
	SD	2.86	3.03
視点操作無し	\bar{X}	10.86	9.23
	SD	2.55	2.72

6.71, $P < .01$ で、それぞれ有意であった。交互作用は有意ではなかった。視点操作の有無の有意な主効果は、絵本の物語中に叙述された事物・人物・事象に幼児の視点を向けさせるような働きかけが、物語の内容理解を促進することを示している。また、絵本の提示の有意な主効果は、絵本を読み聞かせる場合の絵本の提示が幼児の物語理解を促進することを示している。

(2) 視点操作の有無と絵本提示の有無の交互作用は有意ではなかったが、試みに単純効果の検定を行ってみたところ、図1に示したように、4組の平均値間に有意差が認められた。

上記の結果は次のことを示唆している。①視点操作が有り、同時に絵本提示も有る場合には、幼児の物語理解は最も成績が良い。②視点操作が有る場合には、絵本の提示が有っても無くても、幼児の物語理解の成績は、それほど変わらない。③視点操作が無い場合には、絵本の提示が有った方が、無いよりも、幼児の物語理解の成績は良い。

④視点操作が無く、絵本の提示も無い場合には、幼児の物語の成績は最も悪い。

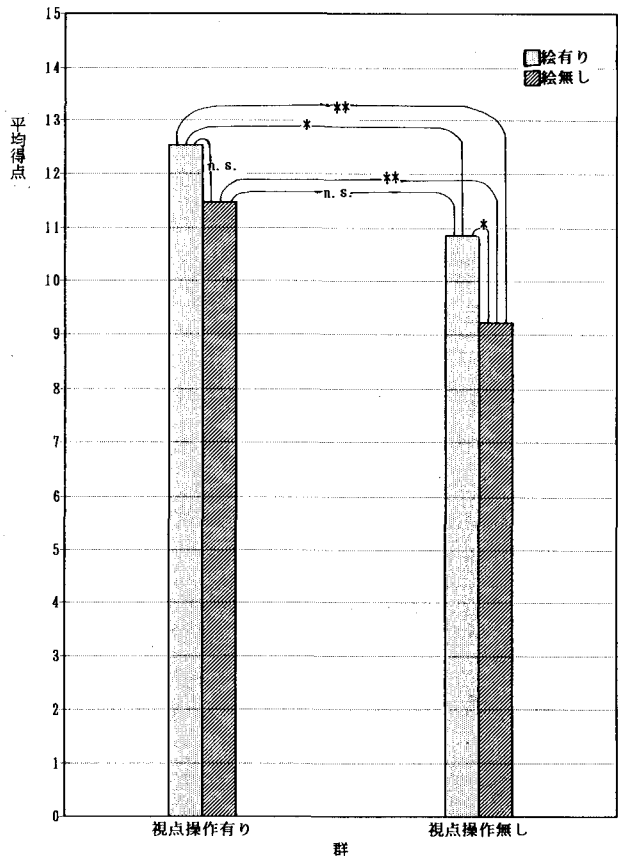


図1 各群の理解度テストの成績

* $P < .05$
 ** $P < .01$
 n. s. 有意差なし

IV. 考 察

本研究の目的は、幼児に絵本を読み聞かせる際の視点操作と絵本提示の条件が幼児の物語理解にどのような影響を及ぼすかを検討することであった。

その結果、(1) 視点操作を行った方が、行わないよりも、幼児の物語理解の成績が良い、(2)

絵本を提示した方が、提示しないよりも成績が良い、ことが明らかになった。

上記の結果のうち、まず、(2)について簡単に述べておきたい。絵本の読み聞かせにおいて、絵本提示有りが、提示無しよりも、物語の内容理解が良かった、という本研究の結果は、今井・中村(1989)、佐藤(1979, 1980, 1983)らの研究結果と同じである。

通常の絵本の読み聞かせ場面においては、幼児は、大人による絵本の文章(物語)の朗読を耳で聞きながら、絵本の絵を見る。そこに、描かれている絵は物語で語られている事物の存在、状態、登場人物の行動や心情、さまざまな情景の変化などを、具体的・具象的に示してくれる。同じ物語を耳で聞くだけで、絵本の提示が無い場合と比べて、幼児の物語理解に差が生じるのは、絵から得られるこのような情報が、物語理解に必要な読み手の認知・記憶・推理などのほたらきを促進することによるのだと思われる。

では、これに、視点操作を加えたなら、幼児の物語理解はどのような影響を受けるのであろうか。この点を検討することが本研究の最大の関心事であった。上記の結果から、読み聞かせの途中において、読み手が幼児に対して、その視点を定めるような働きかけを行った場合には、絵の有無にかかわらず、物語理解が促進されることが明らかにされた。

通常の絵本の読み聞かせと比べてみると、本研究のように、視点操作を行う場合、朗読された物語(作者による文章の叙述)以上に特に新しい情報が付加されるわけではない。読み手が直前に語った叙述の一部について、時には、同時提示されている絵の一部を指しながら、再確認が行われるだけなのである。このような働きかけによって、幼児の物語理解が促進されるのは、物語に出てくる事物の存在、状態、登場人物の行動や心情、さまざまな情景の変化についての明瞭化(clarification)が行われ、それが、さらに物語内容に構造化、換言すれば、物語スキーマの獲得を容易にするためだと考えられる。

最後に、絵本の読み聞かせにおいて、視点操作という働きかけが、幼児の物語理解に有効だったことももう一つの側面を考えておきたい。視点操作を伴う絵本の読み聞かせでは、文章を大人が朗読し、幼児は絵を見ながら黙って聞くという通常の読み聞かせとは異なって、絵本を読み、絵も見せてくれながら、自分に絶えず、まなざしを向け、語りかけてくれる大人がいるわけである。自分が見ているものと同じ対象、自分が描いているものと同じイメージについて確認しながら、楽しい物語の世界を、今、ここで共有している一人の大人の存在を、幼児は強く実感しているにちがいない。そして、それが、幼児の絵本への興味・関心を高める大きな動機づけとなり、幼児の物語理解を促進する重要な要因となっていると思われるのである。

(付記) 本研究をまとめるにあたり、昭和幼稚園、樫原保育園の先生方と園児の皆さんには実験にご協力いただきました。また、資料の収集と整理には心理学専攻の穴瀬優加さんのご協力を得ました。記して深く感謝します。

V. 引用文献

- 今井靖親・飯田敦士 1990 幼児の物語理解における視点の役割 奈良教育大学教育研究所紀要, 27, 161-172.
 今井靖親・中村年江 1989 幼児の文章理解に及ぼす読みの形式と絵の効果 奈良教育大学紀要, 38, 193-205.
 中村年江 1991 絵本の読み聞かせに関する心理学的研究—絵本の読み聞かせに関する変数と望ま

絵本の読み聞かせに関する心理学的研究(IV)

しい読み聞かせ条件の検討－読書科学, 35, 149－159.

中村年江 1992a 絵本の読み聞かせに関する心理学的研究(Ⅱ)－絵本の読み聞かせが幼児の物語理解に及ぼす影響－読書科学, 36, 1－8.

中村年江 1992b 絵本の読み聞かせに関する心理学的研究(Ⅲ)－幼児の物語理解に及ぼす質問方法の影響－日本読書学会第36回研究大会発表資料集, 6－11.

佐藤公代 1979 子どもの思考の発達に関する研究－子どもの絵本理解における挿絵の役割－愛媛大学教育学部紀要, 教育科学, 25, 115－124.

佐藤公代 1980 幼児の思考の発達に関する研究－幼児の絵本理解における挿絵の役割についての再吟味－愛媛大学教育学部紀要, 教育科学, 26, 105－114.

佐藤公代 1983 幼児の思考の発達に関する研究－幼児の絵本理解における挿絵の条件について－愛媛大学教育学部紀要, 教育科学, 29, 55－66.